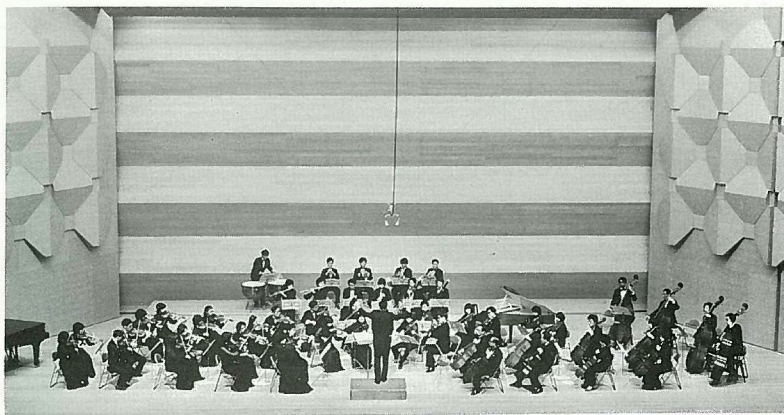


倉敷室内管弦楽団

第5回定期演奏会



'7912月9日(日) 14:00~16:00

倉敷市民会館

主催 / 倉敷市・倉敷市教育委員会・倉敷市自主文化事業協会・倉敷市文化連盟・倉敷室内管弦楽団
後援 / NHK岡山放送局・山陽放送・岡山放送

ごあいさつ

倉敷室内管弦楽団

団長 小山 裕 章

早いもので倉敷室内管弦楽団を創設してから5年、定期演奏会も5回を迎えることになりました。この間、皆様の暖いご支援により着実に成長し、演奏会にオペラに岡山県でも最も活躍している代表的なオーケストラになりました。

しかし、この楽団が最も苦慮しているのは一定の練習場のないことと、経済的なことです。市民会館のご好意により楽屋を使用させて頂いていますが、しばしば使用できなくなり、練習場の確保に頭を悩ましています。文化都市と自負する倉敷ですの、オーケストラを始め、他の団体の育成のためにも、公共の練習場が必要と思われまます。また経済的にも貧困で必要な楽器も演奏会ごとに借用してすませています。これらの困難を団員の熱意により克服しています。もう少し関係者のご理解を頂きたいものです。

今回は古典派のハイドン、モーツアルト、ベートーベンの作品を取りあげました。今迄のバロック中心のプログラムと変った演奏会になるものと思います。最後までごゆっくりご鑑賞下さい。

プログラム

交響曲第40番ト短長 K550モーツアルト

- 第1楽章 アレグロ・モルト
- 第2楽章 アンダンテ
- 第3楽章 メルエット・アレグレット
- 第4楽章 アレグロ・アッサイ

チェロ協奏曲第2番二長調 作品101.....ハイドン

- 第1楽章 アレグロ・モテラート
- 第2楽章 アダージョ
- 第3楽章 ロンド・アレグロ

〈休憩〉

交響曲第1番八長調 作品21.....ベートーヴェン

- 第1楽章 アダージョ・モルトーアレグロ・コン・ブリオ
- 第2楽章 アンダンテ・カンタービレ・コン・モート
- 第3楽章 メヌエット
- 第4楽章 アダージョーアレグロ・モルト・エ・ヴィヴァーチェ

曲目ノート

モーツァルト 交響曲第40番ト短調 K550

今モーツァルトの作曲したフシの中で一番有名なやつといったら、たぶんこの曲の出だしじゃないだろうか。「哀しみのシンフォニー」とか「愛よ永遠に」とか、気のきいたポピュラーにも編曲されて、あのしなやかで、ちょっと哀愁をただよわせたメロディラインが、今とてもモテているけど、でもモーツァルトの好きなキミだったら、この曲が彼としては相当異色なものだってことも知っているだろう。考えてみればこの曲はずいぶんいろんなことをいわれてきたわけで、モーツァルトの悲しみだの、モーツァルトの溜息だの（演歌じゃないけど）、はてはモーツァルトはMinor（短長）の曲で初めて本心を打ちあげたとかいう「解釈」まで…。でも、良く聞いて

みて欲しい。彼はMinorを使ってそれほど普段と違うことをやろうとしたのだろうか。確かにこの曲にはほかのMajor（長調）の曲よりもナイーブな抒情があるし、内向的な情熱もあるみたいだけど、でもそれはまさにMinor Code そのものの特徴ってことじゃないか。（ちょっとカッコヨク言わせてもらえば）この曲がすばらしいのは、そのMinorな響きの美しさを一曲に凝縮した所にあるんだと思う。それともう一つモーツァルトはすごいと思うのは、この曲と一緒にMajorのすばらしい交響曲を2曲も(No.39とNo.41「ジュピター」)たった一か月半の間に作曲しちゃったってことなんだ。「モーツァルトは誰だったのか。」(Hildesheimer) (Va室)

ハイドン チェロ協奏曲第2番二長調 作品101

フランツ・ヨーゼフ・ハイドンは、ハンパ・ハイドンと呼ばれている様に古曲派の父に当たる人だが、その愛称はそれだけの意味でなくモーツァルトやベートーヴェンが頼りとした人柄をも表わしていた。またその曲は慈愛に満ち、おおらかでかつ端正・明快、その心地良さは聴者に安らぎを与えてくれる。

チェロは古曲派以後になってこそ、多様な表情を見せる楽器として高く評価されているが、ハイドンの時代には未だその特質が十分に認識されていなかった筈だ。しかし、この2番では難しい技巧が織り込まれて十分に華麗な上に、後のロマン派時代のウィルチオオーズ風とはまた違った口当たりの健康でおおらかな心情に溢れ、しかも明快できちんとした

印象を与えている。その均衡が全く見事である。

そもそもチェロ・コンチェルトは各曲と言われるものが多いが、その気品と美しさにおいてこのハイドンに優るものはない。このような名曲がハイドンの時代に書かれ得た筈がないというので自筆原譜が近年ウィーンで発見されるまで真偽のほどが議論され続けたというエピソードも、この曲の価値を裏付けている。

この曲の練習を重ねるうちに、ハイドンの中に、彼にしてはめずらしい華麗さを見出したように思っている。安田さんは今晚、どのように奏いて見せてくれるだろうか。(Cello宇宙)

ベートーヴェン 交響曲第1番八長調 作品21

「ウーン、一番をやるのかー」。知る人ぞ知る、この曲はやりにくいのです。「英雄」や「運命」などは100%ベートーヴェンらしくひげばよいのですが、この第一番は全体をいかにもベートーヴェンふうにはひいたら変なことになる曲です。のちの大交響曲の片鱗をうかがわせるように、つまり、**におわせる程度にしなければならぬ**ところに難かしさがあると思います。

交響曲の父ハイドンは1795年に「太鼓連打」(ほか1曲を作っておしまいにしてしまうし、大天才モーツァルトはこれより前、1888年に第39、40、41番と作って数年後に若死してしまう)で、交響曲はこのあとちょっと空白になります。そのとき、かなりツッパリ屋のベートーヴェンが、俺なら交響曲をこう作るとばかりに発表したのが第1番です。いきなり

不調和音で始めるなんて、踊れもしない速さのメヌエットの第3楽章なんて、…。でもこのあとの第9番までの交響曲を知ると、なるほどベートーヴェンは交響曲というものをハイドンともモーツァルトともかなり異なったふうにとらえていたのだということがわかるような気がします。

今回のプログラムの面白さは、ハイドンの晩年の作曲であるチェロ協奏曲とモーツァルトの最晩年の交響曲第40番で18世紀末の音楽の雰囲気を作っていて、ここにベートーヴェン登場という歴史を演出しているところにあると思います。曲り角というか新時代の交響曲の意味と楽しさを充分味わってみてください。私も演奏しながら改めてそれを味わってみましょう。(Vn陶山)

出演者紹介

指揮
菊池 東
TO KIKUCHI



玉島に生まれる。5才の時からヴァイオリンを始め、大学2年生の時広大室内合奏団で初めて棒を振り、その後指揮者としてクラブ活動を続けた。東京のムチカ合奏団のトレーナーを経て昭和48年福岡。昭和49年倉敷室内管弦楽団を仲間と共に結成。以来同楽団の常任指揮者として活躍。なお本年度より母校の広大室内合奏団の指揮者として招かれ、後輩の指導にあっている。

その間ヴァイオリンを福田淑子、田中敬諸氏に、指揮を榎本辰郎、早川正昭諸氏に師事。

また、広島交響楽団、東京都民交響楽団、モーツァルト室内管弦楽団等の団員としてオーケストラを経験。倉敷音楽協会理事として協会主催の演奏会等で室内楽の演奏活動を続けている。広島大学工学部卒。

倉敷室内管弦楽団

文化都市倉敷にふさわしい、バロック音楽の演奏を主とするユニークな楽団として、昭和49年12月に誕生。今回の定期演奏会でまる5年になります。発足以来美しい音楽には定評ありましたが、2年前フルートの巨匠ジャン・ピエール・ランパル氏との共演の成功により、楽団のレベルは急速に向上し、年1回の定期演奏会では回を重ねるたびに充実した内容となっています。

今年度の主な活動を紹介しますと、2月に、中国短大フラウエンコール定期演奏会賛助出演（弦楽、ポップス）、7月に特別演奏会、水島愛子と共に（ベートーヴェンVn協奏曲他）8月に倉敷子供劇場で小学生の為の演奏会、10月に二期会オペラ「海の子守唄」出演、同月コスモスコラス10周年定期演奏会賛助出演（ベルゴレージ・スタバートマーテル）、12月には定期と多彩な演奏活動を展開。その高度な技術と美しい音楽の創造に市民は大きな期待をかけています。

チェロ
安田 謙一郎
KENICHIRO YASUDA



1944年生まれ。1955年斎藤秀雄氏に師事し、また「子供のための音楽教室」に入学。1959年桐朋学園高等学校音楽科入学。1960年第29回N H K毎日音楽コンクールチェロ部門第2位入賞。桐朋学園中退。1964年、前橋汀子、今井信子、深井直章、野島稔らとともに桐朋弦楽四重奏団を結成。

1966年、第34回N H K毎日音楽コンクール第1位大賞受賞。海外派遣コンクールにて特別表彰を受ける。また第3回チャイコフスキーコンクール第3位入賞。ガスパール・カサドに師事。1968年よりフィレンツェ及びケルンにてピエール・フルニエに師事。同時、ピアニストの井上直幸らとともにジュネーブトリオを結成する。

1969年、ルチュエルン・フェスティバル合奏団のソリストとなり、同合奏団のヨーロッパ、日本、アメリカ、カナダの海外演奏旅行に同行する。1969年より1973年までフルニエのアシスタントとして、チューリッヒの夏季講習会に同行した。

1970年、ドイツ、フランス、イタリア、オーストリア、ギリシャ、ユーゴスラビア、チェコスロバキア、北欧でデビュー。コンチェルト、リサイタルに出演。

1972年、ルセルンフェスティバル合奏団のユーゴスラビア、フランス、ベルギー、イタリア、スイス、イスラエルの演奏旅行にソリストとして同行し、ハイドン、バッハを演奏。

1973年、小沢征爾指揮新日本フィルハーモニー交響楽団とホンコン・フェスティバル、新日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会でサンサーンスを協演。デッカ、ロンドンにてヴィヴァルディの二台のチェロのための協奏曲を録音。ブラード・カザルスフェスティバル及び、サンモリッツ、ルツェルン、シャモニー、モントルー各フェスティバルでハイドンを演奏。

1974年、サンフランシスコにて、小沢征爾指揮サンフランシスコ交響楽団とシューマンを協演する。グスタード・メニューインフェスティバルをはじめ、ヨーロッパ各地のフェスティバルに参加。

1975年より、東京に居をかまえ、リサイタル、オーケストラとの協演、レコーディングなどに幅広く活躍する一方、桐朋音大の専任助教授として後進の指導に力をそそいでいる。

主な演奏記録

●第1回定期演奏会 (S50.12.8)

ヘンデル 合奏協奏曲 Op 6-10
 ヴィヴァルディ 協奏曲集「四季」より春夏
 バッハ カンタータ BWV202
 『いまぞ去れ悲しみの影よ』
 ブランデルブルグ協奏曲第4番
 小山清茂 弦楽の為のアイヌの歌
 指揮/菊地 東

●第2回定期演奏会 (S51.11.16)

ヴィヴァルディ 2つのトランペットの為の協奏曲
 バッハ ブランデルブルグ協奏曲第1番
 レスピーギ リュートの為の古代舞曲とアリア第3組曲
 ボッケリーニ チェロ協奏曲変ロ長調
 指揮/早川 正昭
 チェロ/山崎 伸子

●ランバルと管弦楽の夕べ (S52.9.24)

テレマン フルーツ協奏曲ニ長調
 モーツァルト フルーツ協奏曲第1番その他
 指揮/早川 正昭
 フルーツ/ジャン・ピエール・ランバル

●第3回定期演奏会 (S53.1.8)

ヘンデル 水上の音楽 (ハレ版)
 モーツァルト ヴァイオリン協奏曲第3番
 ドボルザーク 弦楽セレナーデホ長調
 指揮/フォルカー・レニッケ
 ヴァイオリン/和波 孝禧

●ゴールドブレンドコンサート (S53.11.3)

ウエストサイド物語・序曲
 ロッキーのテーマ
 スターウォーズのテーマ
 フィーリング・アラモ
 マイウェイ 他
 指揮/石丸 寛
 ゲスト/雪村いづみ

●第4回定期演奏会 (S53.12.10)

ブリテン シンプルシンフォニー
 バッハ 二つのVnの為の協奏曲
 モーツァルト 交響曲第38番ニ長調〈ブラーハ〉
 モーツァルト ピアノ協奏曲第20番ニ短調
 指揮/菊池 東
 ピアノ/深沢 亮子

●特別演奏会 (S54.7.15)

ヴィヴァルディ バイオリン協奏曲4番ニ短調
 シューベルト 交響曲第8番ロ短調〈未完成〉
 ベートーヴェン バイオリン協奏曲ニ長調
 指揮/榎本 辰郎
 ヴァイオリン/水島 愛子



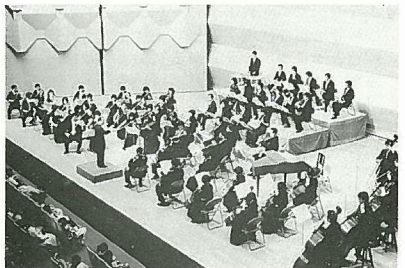
ランバルと管弦楽の夕べより



ゴールドブレンドコンサートより



第4回定期演奏会より



特別演奏会より

倉敷室内管弦楽団

団 長 : 小山 裕章
運営委員長 : 田辺 幹夫
顧 問 : 枡本 辰郎

常任指揮者 : 菊池 東
コンサート
マスター : 守屋美枝子

1st Violins :

越 宗 宣 子
佐 藤 真理子
茂 成 陽 子
陶 山 靖 彦
高 橋 久 子
中 桐 佐知子
中 塚 美智子
◎守 屋 美枝子
渡 部 幸 子
○大 江 恭 子
○中 村 博 仁

2nd Violins :

綾 野 めぐみ
◎稲 田 真 理
工 藤 真 弓
黒 住 晃 代
坂 本 恵 理
奈 留 純 子
二 木 一 元
松 田 敏 彦
吉 田 雅 庸
○水 田 圭 子

Violas :

◎黒 住 彰 夫

谷 本 道 代
友 野 良 一
中 藤 延 代
中 野 隆 重
堀 川 龍 子
室 孝 明
○桂 修 治

Violoncellos :

宇 野 義 雄
田 辺 幹 夫
津 下 典 子
中 野 啓 子
根 木 瑞 恵
◎枡 本 辰 郎
森 田 真 弓

Contrabasses :

◎谷 一 尚
松 本 高 広
安 田 友 子
森 田 博 之
○黒 岩 工

Cembalo :

磯 田 道 代

Flutes :

岡 野 純 子
森 本 悦 子

Oboes :

有 道 惇
小 神 芳 美

Clavipets :

高 杉 玲 子
岡 本 あ き

Fagots :

稲 田 裕 彦
太 田 匡 紀

Horns :

吉 市 幹 雄
西 崎 大 修

Trumpets :

中 桐 実
森 田 裕 三

Timpani :

西 岡 啓 治

Cello :

○西 田 毅 雄

(◎印 パートリーダー)
○印 エキストラ

来春公演予定

団伊玖磨作曲

管弦楽曲「高梁川」 初演発表会

演奏 倉敷室内管弦楽団